Fan Book 4

SLASH4
For Adult Only

セイバーに斬りつけられ傷を負ったアーチャー。

凛は、アーチャーとの繋がりを強めると言う
意味合いを持たせる為に、アーチャーと交わった。

その際、何と凛は身篭ってしまったん。
だが、凛はその事実を受け止め 勝利を誓う。

(Magic For You)

協力体制をとった凛と士郎、セイバー。

士郎とセイバーが魔力補充のために抱き合う所を
目撃してしまった凛。

より多くの魔力をセイバーと分けあえる為に
凛は自らの身体を使って、セイバーと士郎に
協力するのだった。

(SLASH 1)

凛
覚悟は出来たか？
…それ私に聞く事なの？
…愚問だったな
遺言があれば聞いておこうと思ったが……
!!
はっ
あ
ぁっ…

凛…おまえ
目覚っているな？
…それが
何よ…
…相手は
衛宮士郎か？
…違うけど
答える義理は
無いわね
いや
これは
まさか
サーヴァントと
交わったか！
だったら何なのよ
これは
ここ十年で
一番の驚きだよ
凛

気が変わった
今すぐには殺さず素材として使う
聖杯を手にしたらまた来る
……はぁ
殺さないとか言うなら
ちゃんと手当てをして行けっての

…眠らずも
この子に助けられた訳ね
とにかく今は……
回復に努めよう
アーチャーとのあの訓練が……こんな風に役に立つとはね
スー
呼吸を整えて
ハー
スー
気を――
ハー
…うん
スー
ハー
スー
ハー
いい感じ……
凛
覚悟は決まったか?

…お
おう
…大丈夫か？
君が言い出した事なんだが
やはり無理と言うなら…
大丈夫
一度やったんなら二度も三度も一緒よ
今はとにかくあらゆる方法で自己を高める事が必要なんだし
折角の好機だもの
ちゃんとしたいわ
分かった
私も出来る限りの事をしよう

よろしくね
…やっぱり こういう事って 知識があっても 早々実践出来ないから
こうなったら やれる事なら 何でもやるわよ！
そんなに 気負う事は 無い
先ずは リラックスして 呼吸を整えるんだ
うん
一応呼吸法は 拳法と一緒に 教わったから
そうか
ならば 早いな

う～
やっぱり恥ずかしいのは恥ずかしいのよね
過剰な羞恥心は良くないが適度には必要なものだ
「見せつけてやる」くらいに思えばいいさ
そう簡単に割り切れれば
端から苦労なんてしないわよ
もう…
性格悪いわね本当に
まあそれもそうだな
クックックッ

ふむ…
いい具合に解れてきたな
解れ具合も十分だ
…そうなの？
…うわ恥ずかしい…
とても自然だし
必要な事だ
ズプププププ…
ん…
あ…
広…がる…

ギチ
全部入った
あぁ…
アーチャー、の…が
凄く熱くて
その熱が上がってくる
身体の中に
よし
そのまま その熱さを 身体の隅々にまで 行き渡らせるんだ
はっ
あ
凄い…
熱かった所から 手足と頭の 先の方に
熱が… 突き抜けていく

それでいい…
ん…
あ…
そ…それ
あ…
あああ〜〜っっ!

どうだ？
…うん
私の中から何かが出て行って それ以上に何かが流れ込んできた
君は素質も悪くないな
あとは自分で訓練すれば もっと強く出来るだろう
そっか
ありがとう アーチャー
……
結局
最初から最後まで アイツは……
私のサーヴァントだったな
……
士郎と セイバーは どうするのかな……？

ふふ…
余計な事を考えられる程度にはマシになったか
早く帰ってきなさい士郎
そして私は彼に伝えるべき事を伝えて
眠りに就いた
目が覚め
イリヤの胸で深く眠る彼を見た時
事の結末が凡そ分かってしまった

もう
金色の髪を持つ少女はいないのだと
梅雨入りか…しばらく雨が続くな

イリヤを定期的に
看てくれている遠坂が
家に来るのはそう珍しくない
も～
びしょ濡れに
なっちゃった
ありがと
それじゃ
お泊りセット
取ってくるね
大丈夫か？
すぐにシャワーを
浴びた方がいいぞ
…なあ
遠坂
本当に
泊まって
いくのか？
だが……二人きりと言うのは
……今日が初めてかもしれない
話して
なかったの？
私はあの手の事で
冗談を言ったり
しないわよ
いや…
冗談でも本気でも
どっちにしろ
信じがたいんだけど
それじゃ
私がシャワー
浴びてる間に
心の準備を
しておきなさい
心の準備……か

驚かないでね
お腹—
目立ってきてるでしょ
本当だ
触ると分かるな
だから
ロンドンに留学しようと思ってる
いつ?
今月中に
もう手続きは進めてるの
イリヤにも事情を話して付いてきて貰う事にしたわ
!
そうか
遠坂が決めたならそれが一番だろ
元々ね
高校を出たら行く積もりだったから
まあ
一年ばかり早まったのはちょっと寂しいけど
でもそれより一番の懸念はね
貴方よ
士郎
俺?
うん…

新学期の初日 士郎の思いを聞いてね
私も何か吹っ切れたんだ
『未練なんて、きっと無い』
それを聞いて気持ちがとても楽になった
私たちは士郎たちと違って
愛とか恋とか感情の絆まない契約上の関係だったけど
それでもアイツは
掛け替えの無い相棒だった
私のこの思いは忘れなくてもいいんだな――って
そっか――

それからかな
どんどん士郎の事好きになったのは
ふふ
初恋だよ
えっ!?
遠坂…
士郎…
今は何も言わないで
今晩
貴方の家に行くから

そして、今。

寝室前で、静かにシャワーを浴びながら、
私は天井を見つめていた。
「――よし」
決意し、俺は、シャワーを止めた。

遠坂…そろそろ出そうなんだけど…
あ…そのまま出しても大丈夫 一応精液には子宮を収縮させる成分が
えっと、ゴメン もう我慢が…間に合いそうに無い
くうっ！
ドクン
あは…うん、そのまま出して欲しいな…士郎が気持ち良いから出るものを私も感じたい…
ゴメンな それじゃあ…
うん！
ドクン
ありがとう士郎 すごく嬉しくて すごく感じちゃった…
俺の方こそ 凄く気持ちよくて 凄く嬉しかった ありがとうな
士郎… 大好きだよ

SLASH4
恋愛漫画家/成年向